



最優秀賞を受賞した佐藤早苗さん[㊟]

2/21

「いわて平泉の花」強化
JA花き部会

第11回通常総会を開きました。令和6年度は出荷規格の階級変更を行い、収量向上と出荷ロス低減を図りました。令和7年度は3億500万円を目標に、気候変動対策やSNS活用による迅速な情報提供、出荷ロスと生産コストの削減などに取り組みます。



県有種雄牛最優秀枝肉賞の表彰を受ける小山栄一さん[㊟]

2/25

久隆照活用し有利販売へ
JA和牛生産部会

第11回通常総代会を開きました。JA管内で造成された県有種雄牛「久隆照」の産子が優秀な成績を収めており、令和7年度は、「久隆照」を有効活用した優良牛生産の安定供給などに取り組み、販売額13億2000万円をを目指すことを確認しました。



施設キュウリの部で最優秀賞に輝いた佐藤和浩さん[㊟]

2/25

高品質で長期出荷目指す
JAきゅうり部会

第10回通常総会を開きました。令和6年度は、高温対策に取り組んだことで収量の大幅な低下を防ぎ、販売金額2億5529万円(前年対比108.5%)となりました。令和7年度も品質向上や長期安定出荷に取り組み、販売額2億6000万円を目指します。



リンゴ病害防除についての講演の様子

3/6

消費地へさらなるPRを
JA果樹部会

令和6年度果樹販売実績検討会・第5回通常総会を開きました。令和6年度は凍霜害対策に組み込み、販売額は3億841万円(前年対比152.7%)を報告。令和7年度は、栽培マニュアルを活用した良品生産や、消費者へのPR活動に取り組むことを決めました。



入賞された皆さん

3/4

最高賞に千葉大さん輝く

第23回いわて南牛枝肉研究会を開き、最優秀賞には、千葉大さん(藤沢)の去勢牛が輝きました。出発式を3月1日、枝肉の審査・競りを4日に東京食肉市場で行い、5頭級に21頭、4等級に3頭が格付けされ、上物率は100%と好成績を収めました。



令和7年度のナス栽培について指導

令和7年度ナス全体指導会を開き、生産者や関係機関44人が参加しました。栽培開始前に栽培暦について確認した他、夏場の猛暑のため問題になっているアザミウマ類の侵入増殖抑制試験結果の報告や新規に導入した薬剤の使用方法について指導しました。

3/12

令和7年度ナス栽培始動
JAなす生産部会



慎重に議案を進める部会員

第11回通常総会を開きました。令和6年度の販売金額は10億5916万円（前年対比99・1%）で乳質改善目標の達成も確認。資材価格の高止まり、スモール価格の低迷により厳しい状況が続く中、令和7年度も乳質向上に努めることを確認しました。

3/7

乳質改善で経営向上図る
JA酪農部会



市場担当者から出荷時の注意点を聞く生産者

イチゴの目ぞろえ会を開きました。今後気温が上昇し、出荷量も増加することから、収穫時の色合せや出荷時の注意点を確認し、良品出荷に向け意識統一を図りました。

3/14

早めの収穫で良品出荷を
JAいちご生産部会



根菜専門部で優良生産者表彰を受ける(農)ファーム滝沢の菅原祐希さん④

第11回通常総会を開き、令和7年度は補間品目や秋冬野菜の定着による周年野菜産地を目指す他、小規模栽培での収量アップを図り、17品目で2273万円を目標に設定しました。

3/10

周年野菜産地を目指して
JA野菜部会



最優秀賞の表彰を受ける(株)いさか農園の小野寺泰男社長④

第11回通常総会を開きました。生産者の収益向上や土地利用作物として集落営農組織への作付け推進に取り組み、販売額4256万円（前年対比149・2%）を目指します。

3/10

土地利用作物として推進
JAねぎ部会



栽培管理について情報交換

あぜみち相談会を管内119会場で行いました。中条公民館（一関）には組合員やJA担当者9人が集まり、種まき作業や育苗管理、圃場準備などを確認し、情報交換を行いました。

3/19

おいしい米は苗作りから



挙手で議案を承認する部会員

第11回通常総会を開きました。令和7年度はさらなる生産量の確保と品質向上に取り組み、全体販売額7048万円（うち系統販売額4300万円）を目指します。

3/17

数量確保と品質向上狙う
JA椎茸部会



相談しながら編み物をする部員

編み物講習会を開き、アクリルたわしを手作りしました。アクリル毛糸で、洗剤を使わずに台所の油污れをきれいに落とす、工夫を凝らしたオリジナルたわしを完成させました。

2/21

これで台所がピカピカに
JA女性部一関中央支部市野々支部